



「チャレンジの先に」

校長 菅谷 和孝

6月20日(木)から始まった学校総合体育大会の予選会がすべて終了しました。県大会へ進出した生徒も、そうでなかった生徒も、3年間の思いを込めた全力のプレーで躍動してくれました。また、試合には出場ができなかった生徒も、一生懸命エールを送っていた姿に感動を感じたと共に、次世代のメンバーに先輩方が築いてきた意思が、しっかりと後輩たちに受け継がれているなども感じました。

さて、まもなく37日間の夏休みが始まります。本校の生徒の皆さんはどのような時間を過ごすのでしょうか。新たなことや目標に向かってチャレンジする人。目指すものを達成するために勉強や練習をする人。スポーツや芸術などを鑑賞して応援したり自分の糧にしたりする人。家族の手伝いをする人。何もしない人。など様々だと思います。

私の大先輩に「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋廣之進という先生がいらっしゃいました。古橋先生は競泳で世界記録を33回も樹立し、戦後日本の希望の星として活躍された方です。しかし戦後間もなく開催された1948年のロンドンオリンピックは、日本選手団の参加は認められず、前年に世界記録を樹立し、金メダルも期待されていた古橋先生も出場することができませんでした。そこで、当時の日本水泳連盟が、日本選手権の決勝をロンドン五輪と同日に神宮プールで開催し、記録比べをやったのです。その結果、400m自由形においては金メダルの選手より10秒近く、1500m自由形では40秒近く速いタイムでゴールし、もし古橋先生が参加できていれば、世界新記録で金メダル 2 個に輝いているところでした。その後この成果を受け、翌年の全米選手権に出場することが叶い、そこで見事優勝。アメリカの新聞記事の見出しに「The Flying Fish of Fujiyama」と記載され、後に「フジヤマのトビウオ」と言われるようになりました。

人生の中には、オリンピック不参加のように、いくら自分で努力をしても叶わないことがあります。しかし、本当に努力をしていれば周囲の人が応援してくれ、それに代わる何かを導いてくれたり、場を与えてくれたりするかもしれません。一方で、自分の努力次第で達成できることも山ほどあります。古橋先生は多くの練習を重ね(当時は屋内プールがないので冬は寒かったと思います)、自分に自信を付け、戦後間もないアメリカの地で、最初は滑稽な扱いをされながらも見事戦いぬき、アメリカの人々の心をつかみました。ちなみに古橋先生は戦時中となる1943年当時受け持たされていた、高射砲のネジ切りをしている際に事故に遭い、第1関節からの中指が欠損してしまい、水をかいても抜けていく水泳選手にとって致命的な大けがを負いながらのチャレンジでした。

はじめてやることだったり、不安があることだつたりチャレンジするという事は、とても勇気のいることだと思います。しかし、1歩目がなければ2歩目がありません。スタートしなければゴールもしません。今だからこそできるチャレンジ。夏休みだからこそできるチャレンジを試みてほしいと思います。結果はチャレンジしてみなければ分からないですが、その先に見える景色はチャレンジした人にしか見えない光景が待っています。新たな自分を発見するために、新たな世界を見るために、自分の可能性を信じて成長できる有効な時間として、夏休みを過ごしてほしいと思います。そして、生き生きとした姿で2学期をスタートしてほしいと思います。